

2010年10月13日
株式会社くらコーポレーション

TBS「NEWS 23クロス」での放映について

10月12日、TBS「NEWS 23クロス」にて報道されました内容に関して当社の見解をご説明申し上げます。

今回報道されました件につきましては、去る9月1日MBS「VOICE」で一度報道されたものですが、弊社は既に係争中であるため、また個別の経緯・背景については個人のプライバシー等の問題があること等に鑑み、テレビ局を始め各報道機関からの取材については丁重にお断りしておりました。また、弊社ホームページへの掲載についても同様の理由で控えておりました。

しかしながら、10月12日、TBS「NEWS 23クロス」において、MBS「VOICE」と全く同じ映像を使って、事実と異なるばかりか方法においても恣意的といわざるを得ない2回目の報道がなされました。弊社といたしましても事態を重く見て、お客様、株主様をはじめ、ご心配をおかけしている関係者の皆様に対して、弊社の見解をお示しすべきと判断し、ここに報告させていただく次第です。

この度は、事実と異なる報道であったとはいえ、皆様に弊社のことで大変なご心配ならびにご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。本書でご説明申し上げます弊社の見解に関して、是非ご理解をいただき、今後とも株式会社くらコーポレーションへのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【報道内容について】

- ・内定辞退を強要したなどという事実は一切なく、ご本人の意思により辞退されることになったものです。
- ・弊社の2010年4月1日付入社の新卒採用計画に対して、2010年3月時点での内定者数は計画を何とか満たすことが出来る人数でございました。入社承諾書の提出までしておきながら、時期を問わず内定辞退者が極めて多く発生する状況にも関わらず、やっとの思いで採用計画を達成しました。採用担当者は全国を駆けずり回って、必死になって弊社の魅力を伝え、入社してくれる学生を探し回っております。また、

業績を見てもおかげさまで堅調に推移しており、また今後も新規出店などの拡大・成長施策を予定しておりますため、人員確保は最重要課題となっております。そういう実情がある中で、弊社の方から内定辞退を強要するなどして、せっかくの入社予定者を削減するなど考えられません。しかし、報道においては、何故弊社が内定辞退を強要する必要があるのか、一切報じられておりません。

- ・番組に登場していた関西大学出身の鈴木さん（仮名）に至っては、事前に与えられていた課題を全く行わずに研修に参加している状況であり、研修中も遅れを取り戻そうという意欲すら感じられない状況でした。また、本人は、研修中に3度に亘り辞退を申し出てきており、その都度弊社人事担当者が「頑張れ。君なら出来る。」「逃げずに乗り越えよう。」と励まし研修に復帰してもらいました。4度目の面談においても慰留しましたが、それでも辞意は固く内定辞退の手続きを行いました。さらには、その翌日に帰宅のために駅に送る前、人事担当者から「辞退届は出したが、今なら撤回して研修に戻れるが頑張れないか」と声を掛けましたが、「結構です。」と振り切って帰宅されました。この弊社の対応のどこが内定辞退強要なののでしょうか？さらに、今年2月には鈴木さん（仮名）の配属店舗は既に決まっていたのですが、3月に入り、本人から「家族が病気になったので自宅から通える店舗に配属を変更して欲しい。」との連絡を受け、要望に沿って配属の変更も行いました。また、4月8日に関西大学を訪問した際には「辞退を強要する気など全くない。戻ってきてくれれば良い。」と大学に伝えましたが、ご本人は拒否されております。このような対応をした内定者に辞退を強要するのでしょうか？全く理解に苦しんでおります。

- ・同じく番組に登場していた山田さん（仮名）は、番組内で、弊社が山田さんを辞めさせようとしていると感じたと言い、その上で、『『もういいです。』と言ったら人事担当者がひたすら怒りだした。それを収めるために土下座をした。』と言っていますが、もし弊社が本人を辞めさせようとしていたならば、怒り出す必要はないはずです。このシーンについては全く理解不可能な展開となっております。事実上、本人が開き直ったように「辞める」と言ったことに対して、人事担当者が「そんなことを言うもんじゃない。」と指導した際、土下座をして謝罪してきたということなのです。この山田さん（仮名）も鈴木さん（仮名）と同様に事前に与えられていた課題を全く行わずに参加している状況であり、その遅れを取り戻させようと周囲が一生懸命サポートしていたにもかかわらず、懸命に取り組もうとせず、挙句の果てに「辞めればいいんですよ。」と開き直ったような態度をとるような状況でしたので、それを指導したということなのです。

それでも最後まで本人の意思は変わらず、やむを得ず内定辞退の手続きをとるに至った次第です。

- ・ 関西大学の吉原氏が「くらの人事担当者は、内定辞退書を伝家の宝刀のごとく振り回した」と言っていました。弊社人事担当者は決してそのような態度はとっておりません。弊社は関西大学には3度訪問して説明をさせていただいたのですが、その1度目の時に、吉原氏から「辞退書はあるのか」と問われたので、辞退書はあるが持参しなかったため後日FAXにてお渡ししたというだけの話であり、その後の2度の訪問の際には話題にもなっておりません。（番組では辞退届が映されていましたが、書面の上部にFAXのヘッダーが印字されていますので、FAXでの提出であったことは確認していただけます。）それを「伝家の宝刀のごとく振り回した」と誇張されたことには悪意を感じざるを得ません。また、吉原氏は「辞退者が20名を超える研修をやっているということ胸を張って仰る」とも発言されていましたが、これもまったく事実と反します。研修の内容・目的・辞退の経緯などを出来るだけ詳細に理解してもらいたいという思いで懸命に説明いたしました。逆に、吉原氏は、鈴木さん（仮名）が辞退に至った経緯を弊社人事担当者がいくら説明しても耳を貸さないばかりか、今年4月の弊社入社者に関西大学の卒業生が3名いるにもかかわらず、それらの人への事実確認もしようとせず、当初より金銭での解決を示唆するなど、弊社として良識を疑わざるを得ない対応をとられました。関西大学とのやり取りについては記録は保存しております。
- ・ 弊社があたかも「社員三誓暗唱」（「資料1」をご参照ください。）を選考基準としているかのように取り上げられておりましたが、そのような事実はありません。あくまで、弊社の行動指針を実践してもらうこと、指示された事はしっかりと行っていくこと、多少の困難があってもやり遂げる大切さを身につけること、などの習得を目的とした研修カリキュラムの1つに過ぎません。番組では二人のアナウンサーが登場し、「これはプロでも無理だ」というシーンがありましたが、それが本当に事実であるならば、弊社には今年4月の新卒入社者はほとんどいないことになります。しかし、実際には257名の方が入社されています。テレビ局はかかる事実をどう受け止めるのでしょうか。
- ・ 入社前研修の案内文書に「くら社員三誓を35秒以内で暗唱できていない場合は帰宅してもらいます。」と記載したのは、毎年驚くほどの人が事前課題をやってこないため、必ずやってくるように意識してもらおうと記載したものです。それでも8割の人は事前課題をしっかりとやってきておりませんでした。ただし、実際に課題をやってこなかったから、出来なかったからといって帰宅させた人は一人もおりません。
- ・ 今後、弊社の主張等は訴訟手続きにおいて明らかにしてまいる所存であり、最終的には裁判所のご判断を仰ぎたいと考えております。

【報道機関に対して】

- ・報道機関に対しては、MBS「VOICE」での報道前、そして今回のTBS「NEWS 23クロス」での報道前の2回に亘り、弊社から内定辞退を強要したなどという事実は一切ないことをお伝えするとともに、報道機関独自の見解ないし評価に基づく一方的な報道は控えていただくよう要請しておりました。また、公共性とその強い影響力等から、事実の正確性はもとより、高度の公平性が求められる放送局という立場にありながら、十分な検証も行わないまま報道に踏み切り、かつ意図的に視聴者に予断を与える内容となっていることは、誠に遺憾でございます。
- ・9月1日報道のMBS「VOICE」において、鈴木さん（仮名）が「本当に今路頭に迷っているところ」と言っていたことに対して、弊社は報道日以前に鈴木さん（仮名）が既に就職をされていたという事実を把握していたため、MBSに事実確認を行いました。明確な回答はなく、「現在貴社とは無関係であるはずの鈴木さん（仮名）について、なぜご質問を重ねられるのか、当社としては理解に苦しんでおります。」と返答がありました。しっかり就職している人を「路頭に迷っている」などと事実と反する報道をするMBSの報道姿勢は強く批判されるべきであり、番組そのものの信頼性は全くないと言わざるを得ません。そして、今回のTBS「NEWS 23クロス」では、明らかに弊社の指摘を意識して、鈴木さん（仮名）のその発言部分だけをカットして報道されています。これは、9月1日MBS「VOICE」が事実とは違うことを報道したことの証左であると考えておりますし、上述いたしましたように矛盾点や事実と異なることが多々あることが明らかな番組を全国放送したというTBSの報道姿勢にも大きな疑問と怒りを感じております。9月1日の報道について弊社からMBSに「事実とは異なり、方法においても恣意的といわざるを得ない報道である。」と申し入れていたにも関わらず、何らの事実確認も行わず、検証も加えることなく、指摘された部分だけをカットして放映するというのは何とも安易な番組作りといわざるを得ません。また、MBSが「鈴木さん（仮名）と貴社（弊社）とは無関係だ」と回答しているにもかかわらず、鈴木さん（仮名）を番組に再度登場させていることに矛盾を感じております。
- ・内定辞退が強要されたものであり内定取り消しと評価される場合には、行政庁である厚生労働省の決定の下で内定辞退強要を行った企業名の公表がなされることとなります。この際には、厚生労働省は、行政庁として当事者に対する公平な聞き取りをもとに、内定取り消しと評価できるのかどうか、企業名を公表すべきかどうかを慎重に決定することとなります。しかし、一放送局に過ぎないTBSやMBSの、不公平かつずさんな取材をもとにした報道において、弊社名は公表されており、視聴者の皆様に予断を与える内容となっております。これは報道の横暴としか言いようがありません。

- ・今回なされた報道機関の事実と異なる恣意的な報道により、弊社のお客様、株主様、お取引先様など関係各位に大変ご心配をおかけすることになっておりますことから、既に顧問弁護士にも相談し、法的措置をとるべく検討しております。

【弊社の思い】

- ・弊社は飲食店を経営する企業です。例えば、「手を洗ってから作業する」ということは絶対的なルールです。しかし、「その都度手を洗う」ということは初心者には簡単なことではありません。それ相当の訓練がどうしても必要になります。事前に与えられた課題をすることを怠ったり、真摯に取り組もうという姿勢が欠けていたりすれば、「都度の手洗い」のルールを遵守せず、結果として食中毒を起こすなどして、お客様の健康を害する、場合によっては生命に関わるという、あってはならない事故を引き起こしかねません。だからこそ、「ルールを遵守する姿勢」と「真摯に努力する姿勢」の習得は不可欠であり、それが不足している者には厳しく指導しなければならないと考えております。
- ・弊社の入社前研修は、上述のような姿勢を含めて、社会人として、あるいは接客業に携わる者として、ごく当たり前の姿勢や考え方やマナーを身につけるものであり、決して専門性が高かったり、技術的に難しかったりする内容ではありません。事前に指示された事は確実にやる、大きな声で返事をする、挨拶をきちんとする、皆とコミュニケーションをとり協力し合っって事にあたる、といった基礎的なことをしっかりと身につけるといいう程度に過ぎません。
- ・研修に参加する内定者の中には、社会における基本的な姿勢がまったく身に付いておらず、「社会人となって働く」という自覚をもたない人が多数存在します。実際に、研修において、「挨拶・返事をきちんと大きな声でやりなさい。」と指導し練習をさせたところ、「そんなことは言われたことがない。」「なぜそんなことをしなければならないのか。」と一生懸命に取り組む姿勢を見せない人、「起立・気をつけ・礼」の練習にすらついていけず早々に辞退していく人もいることは事実です。そのような基礎が身につけていない人を、お客様へのサービスを第一に考える企業として、そのまま最前線の現場に配属することなど出来ようもありません。従いまして、入社までに社会人として恥ずかしくないように最低限のことを身につけてもらおうと懸命に研修を実施しております。
- ・このように最近の若者の気質についてストレートに意見を述べるとご批判を受けることもあろうかと思いますが、実際、他の企業様も新入社員教育には同様の悩みを持っておられるのではないのでしょうか。しかし、私たちは現状認識をしっかりとしながら、

あるべき姿を目指して、お客様に満足頂くために、これからも真摯に取り組んでまいりたいと考えている次第です。

【今後について】

- ・内定辞退に関する問題に関しましては、上述の通り、訴訟手続きにおいて事実を明らかにしてまいる所存です。
- ・入社前に辞退者が出ることは弊社としても不本意なことでございます。一方、お客様により良いサービスを提供していくために、新入社員に基本姿勢を身につけてもらうことは必須と認識しております。より一層創意工夫を加えて社内研修を充実させていき、決められたことはしっかり守る、一生懸命やるべきことをやる、といった社会人としての基本姿勢を、近年の若者により効果的に身につけていただく方法を検討してまいります。

以 上

社員三誓

1つ、私は人と会話することが大好きな社員になります。
そのため人に好意を持ちます。人を喜ばすことが自分の喜びと思います。いつも明るい笑顔で自分から積極的に話しかけます。また常にプラス思考で私と会話すれば相手が明るく元気になるよう働きかけます。

1つ、私は自ら進んで仕事を覚える社員になります。
そのためマニュアルをしっかりと憶えます。分からないことがあればその都度質問します。常に向上心を持ち新しい仕事に取り組みます。またどんな仕事を頼まれても自分を成長させるチャンスだと考え喜んで引き受けます。

1つ、私は社会人としての基本を身につける社員になります。
そのため早寝早起きをします。手洗い・うがいを徹底し、バランス良く食事し、体調管理に気を配ります。毎日、新聞・本を読み知識を深めます。また交通ルールやエチケットを守り健全な社会生活を送ります。

以上